

コウナゴ漁場形成要因の解明

福島県水産試験場 漁場環境部、相馬支場
平成19年度福島県水産試験場事業概要
報告書

1 部門名

水産業－海洋生産－漁場環境
分類コード 19-01-11000000

2 担当者

千代窪孝志、岩上哲也

3 要旨

沿岸漁業の重要な地位を占めるコウナゴ(イカナゴ仔魚)は、漁獲量の年変動が大きく操業計画の策定に支障がある。漁業経営の安定化を推進するため、沿岸域の植物プランクトンの基礎生産力等と魚類生産量との関係を把握、解析した。

- (1) **水温と漁場形成位置**: 相馬市鶴ノ尾崎(県北)と富岡沖(県中)の2～4月までの10m深水温の差が小さいときは、仙台湾内水の本県沿岸域への南下とともにコウナゴが輸送されることにより、漁場が本県沿岸に広く形成されることと一致した。
- (2) **クロロフィル量と漁獲量**: 本県沿岸域における春期のクロロフィルa量は、仙台湾および親潮系水由来の栄養塩供給との関係が示唆されていることから、漁期前のクロロフィルa量とコウナゴ漁獲量との関係を解析した結果、2月のクロロフィルa量と主漁期コウナゴ漁獲量(4月)に強い相関がみられた。また、1～3月のクロロフィルa量計と3～5月のコウナゴ漁獲量計の間にも、操業障害となる環境の特異現象が生じなければ相関がみられた。

4 その他の資料等

- (1) 漁場生産力モデル開発基礎調査(三陸～常磐沿岸海域)調査研究報告書. 平成13年3月